

平成29年度 行政評価事業別シート

	実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	栗田 利一
	全体計画	平成26年度 ~ 平成28年度			経費区分	実施計画事業費		内線	3522			
事務事業名	4227 蔵の町並みキャンパス運営助成事業											
所 属	200200 まちづくり推進部・まちづくり課											
施 策	07023900 特色をいかした地域振興の推進											
予算科目	会計	01 一般会計										
	科目	080401 土木費・都市計画費・都市計画総務費										
	事業	040000 蔵の町並みキャンパス運営助成事業										
事業目的						事業概要・効果						
歴史と文化の遺産である蔵造り等の建物を活用し、キャンパスとして学生が研究・交流する中で、21世紀を担う知の創出と情報発信を行う。また、新たな研究・教育機能を持った都市づくりを産・学・官・民の協働により行う。						歴史と文化の集積である蔵造の建物等を学生の研究や授業の場として活用し、その成果を発信し、文化・産業遺産として次世代へ継承するとともに、産・学・官・民の協働による新たな研究機能をもった都市づくりを行う。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
7校9学部（学科） 1,300人	6校8学部（学科） 1,300人
平成29年度 予定	平成30年度 予定
6校8学部（学科） 1,300人	
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	蔵の町並みキャンパス年間延べ参加者数					
算式	年間延べ参加者数				単位	人
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	
	実績	1,300				
指標選定の理由	須坂市の歴史的資産、資源を活用した蔵の町並みキャンパスにより、地域振興を図るため。					
最終年度目標の根拠	参加大学の学生数（過去の実績を基に算定）					
指標名						
算式					単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式					単位	
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成28年度 決 算	平成29年度 予 算
事業費		950	950
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		950	950
人員数(人)	正規職員	0.4	0.3
	嘱託職員	0.4	0.5
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	2,887.6	2,165.7
	嘱託職員	1,102.0	1,377.5
	臨時職員	0.0	0.0
	計	3,989.6	3,543.2
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		4,939.6	4,493.2

(単位：千円)

平成28年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	950	蔵の町並みキャンパス事業負担金
その他	0	

(単位：千円)

平成29年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	950	蔵の町並みキャンパス事業負担金
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	普通
評価コメント	歴史と文化の遺産である蔵造りの建物等を活用し、大学等の学習の場として、須坂において研究や地域住民と交流することにより、文化・産業遺産の活用や情報発信等につながり、学生が来訪することにより賑わいの創出につながることからまちづくりに必要な事業である。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	普通
評価コメント	学生が歴史的建造物を研修対象にすることにより、所有者の建造物の維持・保存の一助となることや地域住民の方と交流することで賑わいの創出につながっていることから有効な事業である。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	大学等に須坂を題材として学習してもらうことにより、市民への文化財等に対する意識付けや、長期的なスパンで須坂をPRしてまちづくりにつなげていく事業であるため、効率性は追求できない。	

振り返り（決算年度の取組み課題）
多くの大学生等が須坂に来訪することによりまちづくりに有用であった。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

総合評価コメント

学生が来訪することにより賑わいの創出につながることからまちづくりに必要な事業である。

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
-----------	------------

2次評価コメント

市街の学生たちが、須坂市をキャンパスに学習することで蔵の街すざかの魅力を広く情報発信し、賑わいの創出につなげていく。

外部評価

次年度以降の方向性	
-----------	--

外部評価コメント

--